

事務事業の概要							
1	事務事業名	救急連携事業					
2	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	川田 靖代	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち			
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実			
		今後の取組	1	市民への啓発			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる			
		基本的方向	③	安心して暮らし続けることができるまちづくり			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	救急医療対策事業費					
7	事業開始年度	平成	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	檀原市の救急医療について、関係機関が抱える問題を解消し、医療体制の円滑化を図る。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		救急医療連携が円滑に行えるように、市民に対し広報やチラシ等による啓発を行っている。					
11	事業の内容(手法)	<ul style="list-style-type: none"> ・「救急医療協議会」については、関係機関（奈良医大・檀原地区医師会・檀原警察・奈良県広域消防組合等）と飛鳥広域の首長が出席し、救急医療体制の充実と円滑化について、継続的に討議する為に開催する。 ・市民に対し広報やチラシを通じて救急医療の適正化を啓発する。 ・市町村だけで対応できない産婦人科一次輪番体制を県主導のもと、各市町村も負担金を供出している。 					
		平成30年度からの拡充・変更内容（予算措置を必要とするものに限る）					
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 （総計目標値）	30年度 （見込み）	31年度 （見込み）	32年度 （見込み）	
	成果指標						
	活動指標	① 二次救急輪番病院 受診者数	6000	6000	6000	6000	
		② 二次救急病院受診者の内、帰宅者以外の割合(%)	20	20	20	20	
13	コストの推移（単位：千円）		（当初予算）	（予算要求）	（見込み）	（見込み）	
	歳出（直接事業費）（a）		4,343	4,343	4,344	4,344	
	歳入（b）	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
（a）－（b）＝一般財源		4,343	4,343	4,344	4,344		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	一次救急医療事業					
2	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	川田 靖代	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち			
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実			
		今後の取組	2	休日夜間応急診療所の充実			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる			
		基本的方向	③	安心して暮らし続けることができるまちづくり			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	休日夜間応急診療所運営費					
7	事業開始年度	昭和 49 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	一次救急医療患者					
9	事業の目的	急病など軽い症状の患者に対し、民間病院等の診療時間外にも適切な医療を提供することで、市民が安心して生活ができるようにする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		軽症患者が二次救急にかかっている現状に対して、一次救急である休日夜間応急診療所を利用していただくことや、適切な時間帯でのかかりつけ医での診察を受けることなどを啓発するとともに小児医療体制の充実を図る。					
11	事業の内容(手法)	診療形態 〈休日〉 内科：午前10時から午後9時30分 小児科：午前10時から午後9時30分 歯科：午前10時から午後9時 〈夜間〉 内科：午後9時30分から午前0時 小児科：午後9時30分から午前0時 〈深夜〉 小児科：午前0時から午前6時					
		平成30年度からの拡充・変更内容 (予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標						
	活動指標	① 休日診療所受診者数(医科・歯科)	14000	14000	14000	14000	
		② 休日診療所受診者数 うち小児受診者数	9500	9500	9500	9500	
13	コストの推移(単位：千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		233,813	234,418	237,511	239,487	
	歳入(b)	受益者負担額	155,407	155,407	155,407	155,407	
		国県補助金等その他	39,817	39,817	39,817	39,817	
(a) - (b) = 一般財源		38,589	39,194	42,287	44,263		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	二次救急医療事業					
2	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	川田 靖代	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち			
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実			
		今後の取組	3	広域的医療体制の整備			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる			
		基本的方向	③	安心して暮らし続けることができるまちづくり			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	救急医療対策事業費					
7	事業開始年度	平成 5 年度	事業終了年度	平成 年度			
事務事業の実施							
8	対象	二次救急医療患者					
9	事業の目的	急病や怪我などで手術や入院等が必要な患者に対し、民間病院の輪番による受け入れ体制を整備し、市民が安心して生活できるようにする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		二次救急輪番病院の確保のために連絡を密にして、体制を維持する。					
11	事業の内容(手法)	市内における輪番制の二次救急を実施している。内科及び外科について、市内3病院、市外3病院の体制を取っている。しかし、現状では二次救急医療機関の役割の複雑化や医師不足などの問題があり救急患者の受入が困難になってきている。そこで、まずは中和医療圏内の市町村で連携や情報の共有を図る。次に二次救急医療機関へと連携を広げていくことで、広域的な救急医療体制を構築し、市民の安心・安全を図る。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	二次救急輪番病院患者受入数	6000	6000	6000	6000	
	活動指標	① 二次救急輪番病院患者受入数	6000	6000	6000	6000	
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		69,976	69,976	69,976	69,976	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他	6,497	6,497	6,497	6,497	
(a) - (b) = 一般財源		63,479	63,479	63,479	63,479		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	二次救急医療における広域連携					
2	担当部名	健康部	担当課名	健康増進課	課長名	川田 靖代	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	2	福祉と健康づくりで明るいまち			
		施策	2	医療サービスと救急医療体制の充実			
		今後の取組	3	広域的医療体制の整備			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-4	安心して便利に暮らせるまちをつくる			
		基本的方向	③	安心して暮らし続けることができるまちづくり			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	救急医療対策事業費					
7	事業開始年度	平成 28	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	二次救急医療患者					
9	事業の目的	急病や怪我などで手術や入院等が必要な患者に対し、中和医療圏内での広域的な民間病院の輪番による受け入れ体制を整備し、市民が安心して生活できるようにする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		平成5年度より、民間病院（平成29年度は、市内3病院・市外3病院）の輪番体制による、二次救急医療体制を整備し、市民の安心を図っているが、受入状況は檀原地区外が約4割を占め、市民が地区外に回される状況も続いている。その上、二次救急医療輪番体制への予算は毎年約7,000万円である。地区外患者割合及び従事者の実態情報から考えて、広域で取り組むべきと考える。					
11	事業の内容(手法)	檀原地区における実態を近隣市町村及び奈良県に把握してもらい、檀原地区内だけでの対応に限界がきている事、消防が広域になっていることを踏まえ、”檀原が実施している体制を活用させてもらっている”から”自分の地域の住民の問題を自分たち行政が担当する”という意識改革を行い、二次救急医療体制が崩壊しないよう、広域のネットワークで支える仕組みづくりへと繋いでいく場の設定を展開していく。中和医療圏域の市町村及び県と救急医療の実態や情報の共有を図りながら広域的な救急医療体制の構築に取り組む。					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	二次救急輪番病院患者受入割合	90%	90%	100%	100%	
	活動指標	①	二次救急輪番病院患者受入割合	90%	90%	100%	100%
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		894	894	0	0	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他	829	0	0	0	
	(a) - (b) = 一般財源		65	894	0	0	
14	増額理由	継続事業					
備 考							